

米実体経済の減速が浮き彫りになるも、FOMCでは大幅利上げ継続の見通し

ポイント① GDPはプラスも、実体経済は減速

10月27日に発表された米国の7-9月期実質GDPは、前期比年率換算値で2.6%増加し、3四半期ぶりのプラス成長となりました。ただ、成長をけん引した純輸出（輸出-輸入）の増加の背景は、今年前半にコロナ禍からの経済活動再開に伴って輸入が急増し、同項目がマイナス成長となっていた“反動”との見方が強く、実際のところ個人消費などの民間最終消費支出（個人と企業の合計の支出）や住宅投資は鈍化しており、実体経済の減速が示唆された内容となりました。

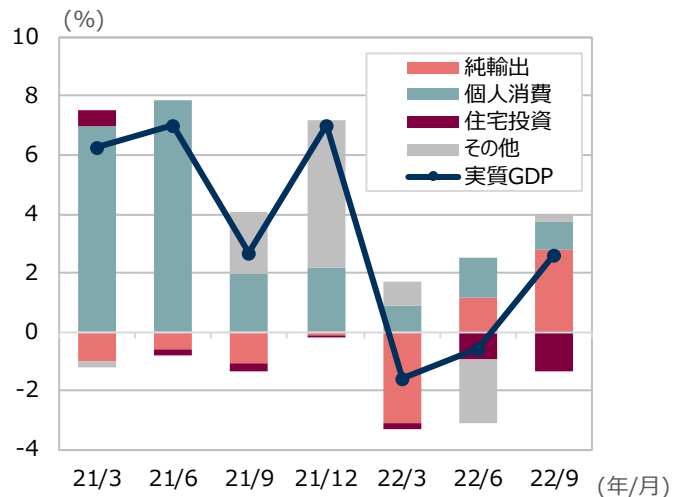
ポイント② PCE物価指数は引き続き高水準

一方、翌28日に発表された9月の米PCE（個人消費支出）物価指数は、前年同月比で6.2%の上昇と、引き続き高水準となりました。また変動の大きいエネルギーと食品を除くコア指数については、前年同月比で5.1%の上昇と、8月の同4.9%を上回り、高インフレの長期化に伴う賃金上昇が、サービス価格を全般的に押し上げる格好となりました。同状況下、9月の米個人消費支出は前月比で0.6%増加しましたが、同月の個人貯蓄率は3.1%と、前月比で0.3%低下しており、一部の世帯では物価高に対応すべく、貯蓄を取り崩して支出に回していることが想定される内容となりました。

ポイント③ 11月FOMCも大幅利上げの見込み

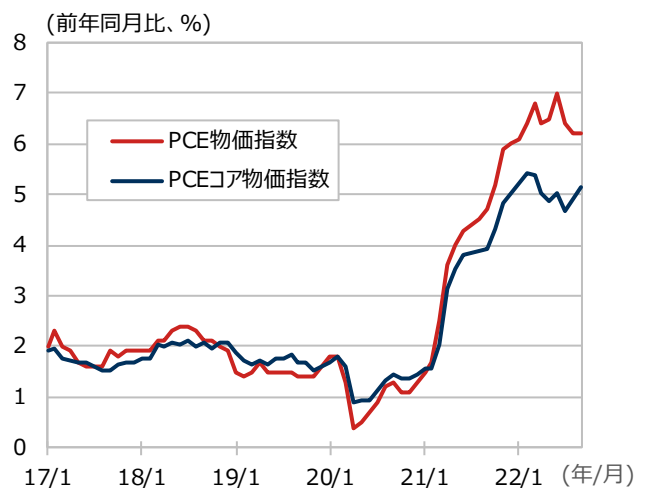
市場では、実体経済の減速を受けつつも、高水準となった米PCE物価指数を背景に、「FRB（米連邦準備制度理事会）による金融引き締め方針に変更はない」との見方が強く、11月2日のFOMC（米連邦公開市場委員会）においても、0.75ポイントの大幅利上げが行なわれる見通しです。

米実質GDP（国内総生産）と寄与度の推移



期間：2021年1-3月期～2022年7-9月期、四半期
 (注) 実質GDPは前期比年率換算値（四半期の伸びを1年あたりに換算した値）
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米PCE物価指数の推移



期間：2017年1月～2022年9月、月次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント
 11月2日 米金融政策発表
 11月4日 米雇用統計（10月）